

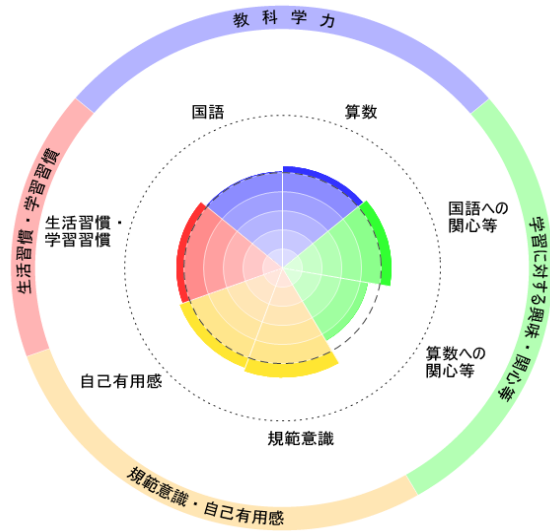
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
国語	○領域では話すこと・聞くことの正答率が全国より4.9ポイント、県より5.7ポイント、読むことの正答率は全国・県ともに1.4ポイント上回った。問題形式では選択式は全国を1.6ポイント、県を1.8ポイント、記述式の問題の正答率は全国より3.1ポイント、県より3.6ポイント上回った。 ○接続語を使って2文に分けて書き直す問題については、全国を11.8ポイント、県を13.5ポイント上回った。 ●漢字に書き直す3問題については、「対象」「限らず」は全国・県ともに下回った。「関心」は全国のみ下回った。 ●問題をよく読まず理解しないまま答えたと思われるものがあり、その問題は正答率が全国・県ともに下回った。(報告文章の特徴を選択して選ぶ問題)	・単に漢字練習に取り組みさせるだけではなく意味を考えさせたり、熟語が使われる場面を考えさせたり、同音異義語を比べさせたりする指導を増やす。 ・読書の機会を増やし、図書館司書と連携して読書指導に取り組む。下学年から本に親しむ習慣をつけたい。
算数	○全体としては正答率は島根県を4ポイント、全国を2.4ポイント上回った。 ○評価の観点(算数への関心意欲態度、数学的な考え方、数量や図形についての技能、数量や図形についての知識理解)では正答率は全て全国・県とも上回った。特に数量や図形についての技能についてが一番高く、全国を3.6ポイント、県を4.1ポイント上回った。 ●問題形式の正答率では、選択式・短答式・記述式のうち、記述式が全国のみ1ポイント下回った。	・算数で使う言葉(和差積商、等しい、等の用語)を日頃から子どもたちが使うよう指導する。 ・式を言葉に置き換え、分かりやすく言葉を使って説明を書く活動を多くする。

(2)生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
	○新聞を読むことについては、ほぼ毎日読む、週に1～3回読む、月に1～3回読むと答えた子どもの割合が、全国より34.6ポイント、県より26.5ポイント上回り、社会的関心が高いと思われる。 ○総合的な学習で自分で課題を立て、調べたことを発表する活動に取り組んでいると答えた子どもの割合が高かった。(全国より16.3ポイント、県より12.3ポイント上回った。)課題を設定し追求していくことについて意欲が高いと思われる。 ●算数の勉強が好きだと答えた子どもの割合が全国・県ともに下回った。また、よく分かったと答えた子どもの割合も全国・県ともに下回った。	・算数が難しいと感じている子どもへの手立てを工夫する等、個別支援を充実させる。 ・算数が好きでない主な理由について、「計算が苦手だから」「問題が難しい」と答えた子どもが多かった。繰り下がりのある引き算、かけ算九九が定着するよう、低学年での繰り返し練習による定着が必要である。また、問題を読み取ることができるよう読解力もつける必要がある。

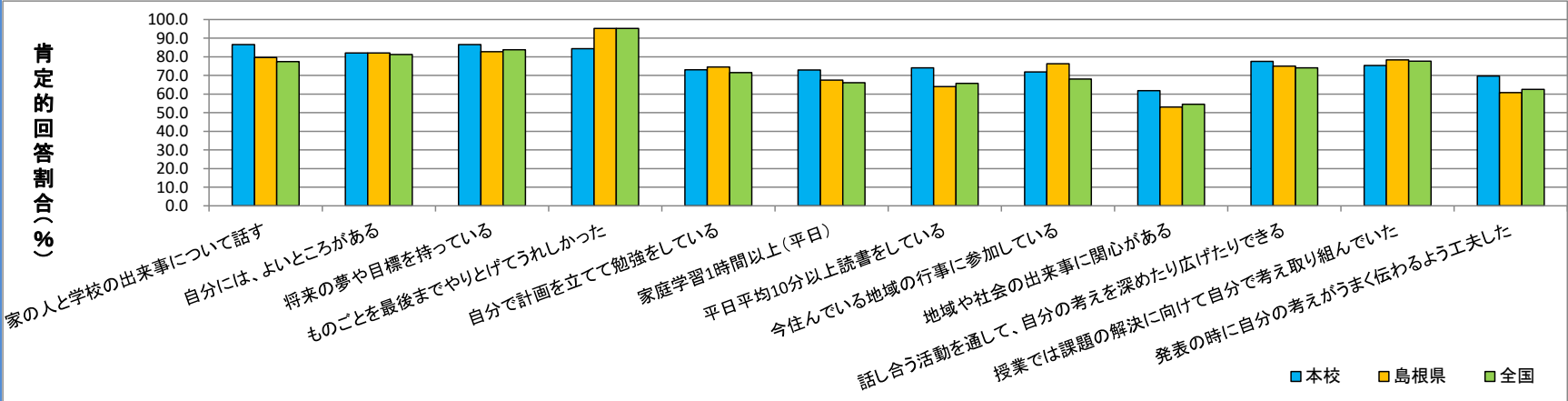
(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・特に、中下位層の基礎学力を引き上げるため、基礎的な力をつける学習について、学校での指導の工夫や家庭学習を進めることで習慣づける。
・算数においては、児童の苦手意識や状況を把握して支援・指導を工夫する。(少人数に分かれて指導するなど)

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



【参考】

○平均正答率	本 校	松江市	島根県	全国
国語	64	63	62	63.8
算数	69	66	65	66.6

受検者数 89 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示して下さい。